宮城県気仙沼市文化財調査報告書第３集

塚沢横穴古墳群
B地区発掘調査報告書

昭和56年3月

気仙沼市教育委員会

塚沢横穴古墳群
B地区発掘調査報告書

気仙沼市教育委員会

はじめに

水産都市気仙沼は、いにしえから栄えてきたことは100ヶ所もの文化財（埋蔵文化財、館跡、有形、無形文化財、天然記念物）や数多くの伝統があることからもわかります。気仙沼人はそうした豊かな環境の中で育くまれているのです。

ところで、今回の報告書の地八瀬に市内から行くには、国道284号線を松川から右折する道路と、大林から入る道があり、その合流点芳ノ口付近に月立小、中学校と塚沢横穴古墳群数十基がある。この古墳群は奈良時代から平安時代（8～10世紀）にかけてこの地方を支配した豪族の墳墓である。

この地区には藤原時代に当地から海産物、塩を追分、松川、早稲谷を経て東磐井に運ぶ重要な道がある。平泉の金色堂は気仙沼、本吉地方の産金地帯からの「黄金」でつくられたといわれている。八瀬の地名は京都からの落武者が、故郷の地形に似ているのをしのんでつけたもので、長方形の山脈にかこまれた山間地帯である。豊富な薪炭を利用しての「たたら吹」の製鉄法で知られている製鉄地帯なので、製鉄カスが今も各所に散在している。「コウゾ」を原料にして和紙づくりに励んだ地区でもある。

一の関街道、大船渡線の開通によって交通路としての価値は激減したが、今も岩手県南とのつながりは続き縁組している家も多い。

この「塚沢横穴B地区古墳群発掘調査報告書」は、昭和51年3月に発行しました「塚沢横穴古墳群」の姉妹篇とも云うべきもので、調査に当たっては、宮城県教育庁文化財保護課の指導を仰ぎましたが、特に氏家課長、佐々木係長のご指導をいただきました。その他7月末から8月初旬という猛暑の中で作業をされた調査員の先生方、協力員、市文化財保護審議会委員、土地所有者の菅原賢三氏に厚く感謝と敬服の意を表する次第です。

この報告書を刊行するにあたり、今後この貴重な遺跡が末永く保存されるとともに、本書が多くの方々に活用され文化財保護思想の昂揚に資することができれば幸いでございます。

昭和56年3月

気仙沼市教育委員会

教育長　清　原　正　之

例　　言

1．本書は、宮城県気仙沼市字塚沢157の1番地（菅原賢三氏所有地）に所在する「塚沢横穴B地区古墳群」の発掘調査報告書である。

2．本書の執筆・編集は宮城県気仙沼市教育委員会社会教育課文化体育係、斉藤武彦係長・鈴木実夫技師が担当し、図版作成については調査員今野章教諭と小野寺恵里子氏の協力を得た。

3．本書で使用した2万5千分の1の地形図は北海道地図株式会社仙台支店が建設省国土地理院の承認を得て複製した「気仙沼市全図」を再複製して使用したものである。

目　　次

序……宮城県気仙沼市教育委員会
教育長　清　原　正　之

例　言・目　次

調査要項……1

I．調査に至る経過……2

II．位置と環境……2

1．遺跡の位置と自然環境

2．歴史的環境

III．調査の方法および経過……3

1．調査の方法

2．調査の経過

IV．調査の概要……4

図　版……6

写真版……12

調査の要項

1．遺跡の名称　塚沢横穴B地区古墳群

2．遺跡の所在地　宮城県気仙沼市字塚沢157の1

3．調査期間　昭和54年7月26日～8月8日

4．調査横穴　3基

5．調査主体　宮城県気仙沼市教育委員会（教育長　清原正之）

6．調査指導　宮城県教育庁文化財保護課

7．調査員　小野寺　昭（気仙沼市立月立小学校教諭）
奥原道樹（〃　〃　鹿折中学校教諭）
後藤幸雄（〃　〃　気仙沼小学校教諭）
今野　章（〃　〃　大島中学校教諭）
鈴木実夫（〃　教育委員会社会教育課）

8．調査事務局　宮城県気仙沼市教育委員会社会教育課
課長　千葉貫二
係長　村上　敏
主事補　熊谷和彦

9．調査協力者　三浦百郎（気仙沼市文化財保護審議会委員長）
小山正平（〃　〃　副委員長）
本田禎太郎（〃　〃　委員）
菊地角治（〃　〃　〃）
吉田小次郎（〃　〃　〃）
尾形律行（気仙沼市立新城小学校教諭）
菅原賢三（土地所有者・塚沢横穴古墳群保存会長）

10．調査作業員　菅原利男・菅原清政・菅原あい子・菅原節子
菅原たかし・小野寺秀司・菅原明美

Ⅰ．調査に至る経過

塚沢横穴Ｂ地区古墳群は、昭和46年に発見された塚沢横穴Ａ地区古墳群の調査の際に分布調査で確認され、昭和50年9月17日に気仙沼市指定史跡となる。Ａ地区とは八瀬川の対岸約200ｍの河岸段丘の東南向きの斜面に位置している。

この古墳群は、現在のところ、わが国の横穴古墳の最北として注目されており、横穴古墳群の研究上貴重な遺跡とされている。

昭和50年7月に発掘されているＡ地区は、人骨・須恵器・土師器・刀装具等の出土があり、奈良時代から平安時代にかけて使用された墓として位置づけられたが、本調査のＢ地区については、Ａ地区とほぼ同時代に構築された横穴であろうという推定だけで、その形態、年代等については、何ら資料を得ることができなかった。こうしたことから、今回、土地所有者菅原賢三氏（塚沢横穴古墳群保存会長）の御協力を得て、宮城県教育庁文化財保護課職員の指導のもとに、昭和54年7月26日より発掘調査を実施することになった。

Ⅱ．位置と環境

1．遺跡の位置と自然環境（第1・2図）

塚沢横穴Ｂ地区古墳群は気仙沼市字塚沢157の1（菅原賢三氏所有地内）に所在する。塚沢地区は気仙沼市の中心部から北北西へ約8㎞にあり、気仙沼と一の関を結ぶ国道284号線切通より上八瀬方面にわかれ、約6㎞の所にあり、気仙沼市立月立小学校より約500ｍ北に位置している。この地は上八瀬地区北の山陵より南に流れる八瀬川と塚沢地区西の山陵より流れる塚沢川の合流点の扇状地および八瀬川両岸にある河岸段丘上に民家が点在し、その周辺に水田や畑が耕やされている地域である。

Ｂ地区古墳群は八瀬川西岸の河岸段丘の東斜面に立地している。周辺の現状は、西側上段は畑地になっており、東側下段の段丘面は水田として利用されている。古墳群の所在する斜面のすぐ下の段丘面は、かつては畑地として利用されていたが、現在は荒地となっている。昭和50年に発掘調査が行われた塚沢横穴Ａ地区古墳群とは八瀬川の対岸に位置し、西に約200ｍはなれた所に位置している。

2．歴史的環境（第1・2図）

気仙沼市には現在95の遺跡が確認されているが、八瀬川流域には7遺跡しか発見されていない。上八瀬地区中井には中井館[3]（宇南館）がある。屋号館屋敷の西側の山の上にあり、東西30ｍ、南北100ｍの細長い平場が開け、特に一段高くなった壇上には宇南神社が祭られている。この館は古くから知られ「風土記」に高さ20丈、東西25間、南北18間とあり、熊谷丹波の居城と伝えてある。この中井館より北へ約200ｍの上八瀬青鹿地区の菊地退三氏宅裏山に青鹿館[4]がある。高さ約10ｍ、東西60ｍ、南北80ｍの小規模な平山城形式のもので、南面に櫛御気野神

社が祭られている。塚沢地区の南、関根地区には縄文時代の遺跡が知られている。関根地区より岩手県東磐井郡千厩町へ通ずる道ぞいに関根遺跡[5]がある。吉田秀一氏宅周辺の桑畑や畑に石器や土器が出土し、出土品は月立中学校に保管してある。関根遺跡の北約 300 mに縄文時代晩期の土器を出土する遺跡がある。関根地区の南約 2 kmに広く開けた台地区があり、八瀬川の西の河岸段丘上に月立台遺跡[6]がある。この遺跡は東西 200 m、南北 100 mの範囲で、以前から縄文時代晩期を中心とする土器片・石棒・石匙等が多く出土し、月立小・中学校に保管されており、また、八瀬川流域では塚沢横穴A地区古墳群でしか発見されていなかった須恵器が出土している。回転糸切底の須恵器杯片 1 点だけであるが、塚沢横穴古墳群につながる文化が八瀬川流域に存在することを立証する貴重な資料であろう。

以上が縄文時代から中世に至る遺跡を紹介したが、近世から現代にかけ、この地域は製鉄、金山等の遺構が多く存在していることも注目される。

III. 調査の方法および経過

1．調査の方法（第 2 図）

昭和 50 年 7 月A地区古墳群の発掘調査の際、ボーリング調査でB地区古墳群が確認され、昭和 50 年 9 月 17 日に気仙沼市指定史跡になっている。今回の調査は本古墳群の内容把握と今後の保存資料を得るための学術調査として実施したもので、調査区設定の際は、できるだけ横穴の数をしぼり、古墳群の端に入れることにした。調査区は事前のボーリング調査で確認した、古墳群の東端部の横穴 2 基を対象に 45 m²を設定した。

調査は調査区内の表土除去及び掘りこみと調査区を中心とした地形測量の 2 つに分れて、開始した。横穴の入口を確認後、埋土の西側半分を掘り、埋土の断面を観察することにした。当初は 2 基ということで、開始したが、北東端に小規模な横穴が 1 基確認され、3 基を調査することになった。地形図は 1/200 で、横穴の土層断面および平面図、断面図は 1/20 で作成した。

2．調査の経過

調査前、事前に調査区の設定のためボーリング調査を実施した。

7 月 26 日、発掘調査の開始式を行う。参加者は土地所有者菅原賢三氏、市文化財保護審議会委員長三浦百郎氏、市教育委員会教育長や調査員をはじめ発掘関係者で、先祖の墓を掘るということで、墓前に線香をあげ供養した。

調査区を設定し、ボーリング調査で確認した 2 基の横穴の掘りこみに入る。北東隅にもう 1 基を確認、調査区を 1 部拡張する。前庭部で地山を確認し、墓室内の掘りこみに入る。連日の雨と地質の軟弱が重なり、調査中に度々玄室天井部が落盤する。2 号横穴と 3 号横穴の埋土のセクション実測。セクションベルトをとりはずし、並行して 1 号横穴の掘りこみ。1 号横穴の

セクション実測をする。

8月3日午後、地元の人々を中心に現地説明会をする。県文化財保護課長をはじめ気仙沼市長、教育長、市文化財保護審議会委員あわせて60名程集った。

3号横穴の調査を完了。すぐ埋め戻す。1号横穴と2号横穴の調査を継続、切りあっているので検討しながら行う。遺物は3基とも出土しなかった。

雨の日が多く、調査を中断せざるを得ない日がつづき、また地質が軟弱であり、埋土中に多くの礫が含まれており、計画どおり調査が進行しなかったが、8月8日1・2号横穴の埋め戻しを終了し調査を完了する。

IV. 調査の概要

調査区設定に伴うボーリング調査の際、8基の横穴を確認した。横穴の配列状況は下段に6基、上段に2基で、その間隔は、とくに規則的ではなかったが、8基とも東南向きの河岸段丘の崖斜面に構築されている。この付近の地質は、耕作土の下に礫を多く含むやわらかい層があり、その下に岩盤がある。横穴はこのやわらかい地層に構築されている。そのため天井部・側壁・奥壁等の崩落がひどく大きな礫を含む層が横穴内に多く確認された。

1号横穴（第3・4・5図　写真3）

2号横穴の東どなりに確認された横穴で、B地区横穴古墳群の北東端に位置している。真南に開口しており、落盤による天井部や側壁等の崩壊がひどく、礫や土砂が玄室内に多く入りこんでいた。

玄室の平面プランは、奥行90 cm、幅110 cmの長方形を呈するが、奥壁に径45 cm、高さ30 cmの礫があった。断面は、奥壁・側壁・天井部と崩壊がひどく原形をとどめていないが、ドーム状を呈していたと推測される。床面は岩盤で、数条に溝状を呈しており、凹凸が著しい。岩盤をそのまま床面として使用したとは思えないので、たぶん、横穴を掘った時、出た砂利層を溝の部分に敷いたものと考えられる。玄門部右側に一部であるが積石が見られ、閉塞した石積の一部であると考えられる。雨の日が続いたせいでもあるが、玄室内は湿度が高く、ジメジメしていた。

2号横穴（第3・4・6図　写真3・4）

1号横穴と3号横穴の中間に位置しており、1号横穴と主軸が交叉するように、東南方向に開口している。玄室内は、天井や側壁、奥壁等の崩落が著しく、大部分が崩落土で埋っており、入り口部から前庭部にかけて上部に自然堆積がみられる程度である。崩落土は礫を多く含み中には長さ30 cmを超える岩も数個入っていた。

玄室の平面プランは奥行180 cm、幅170 cm、高さ125 cmを測る不整な円形を呈している。断面形は天井が奥壁より60 cm程しか残存しないが、ドーム状を呈していたものと推測される。床

面は奥壁から入口部にかけて傾斜をもち下っているが、玄室内は岩盤面が凹凸が多く、1号横穴と同様に砂利層を敷いたものと思われるが、崩落土とほとんど区別がつかず、調査ではその境を見分けることができなかった。また1号横穴との新旧関係については、2号横穴と3号横穴の2基が対象であったため、2号横穴を先に掘ってしまったが、1号横穴の崩落土と思われる岩や土が2号横穴の前庭部に入っていることより、2号横穴の方が先に構築されたものと思われる。本横穴からも遺物はまったく出土しなかった。

3 号 横 穴（第3・4・7図　写真5・6）

2号横穴の西に位置し、2号とほぼ同じ方向に開口している。玄室内の天井や奥壁・側壁は礫層からなり、崩落が著しく、玄室内手前を中心に約90cmの高さまで崩落土が入っていた。奥壁付近の一部と前庭部の上部に自然堆積土が確認された。

玄室の平面プランは奥行175cm、幅120cm、高さ100cmを測る不整楕円形を呈している。断面形は天井部が奥壁より約40cmしか残存していないので、形状を推測できなかった。床面は凹凸が著しく、奥壁西端から急な傾斜で凹み、玄室中央部で盛りあがり、玄門部との中間でふたたび凹み、玄門部で盛りあがっているが、遺体を安置するのに非常に不都合に思われ、砂利を敷いたものと考えられるが、崩落土と区別がつかず確認できなかった。奥壁・側壁・天井部は礫層からなっているが、床は岩盤まで掘って構築されている。前庭部東側は大きな礫2つを利用しているが、この石は置いたものではなく層中に入っていたものである。遺物は出土しなかった。

ま と め

今回の調査は、B地区横穴古墳群の性格・年代等の把握を目的として実施したが思うような成果が得られなかった。本調査をまとめると次のようになる。

1．横穴は八瀬川河岸段丘の崖斜面に、群集してつくられている。

2．1号・2号・3号横穴とも奥壁・側壁・天井部は礫層からなり、軟弱で崩落が著しく、玄室内および玄門部に多量の崩落土が確認された。

3．3基とも岩盤まで掘っているが、岩盤面が凹凸が著しく砂利を敷いたものと思われる。

4．横穴の形態については、崩落が著しいこともあり、明確ではないが、玄室平面プランは不整形で、断面形は不整なドーム状を呈すると思われる。また玄門部と前庭部については、くびれより玄門部を確認できるものもあるが、確実に追求できるものはなかった。

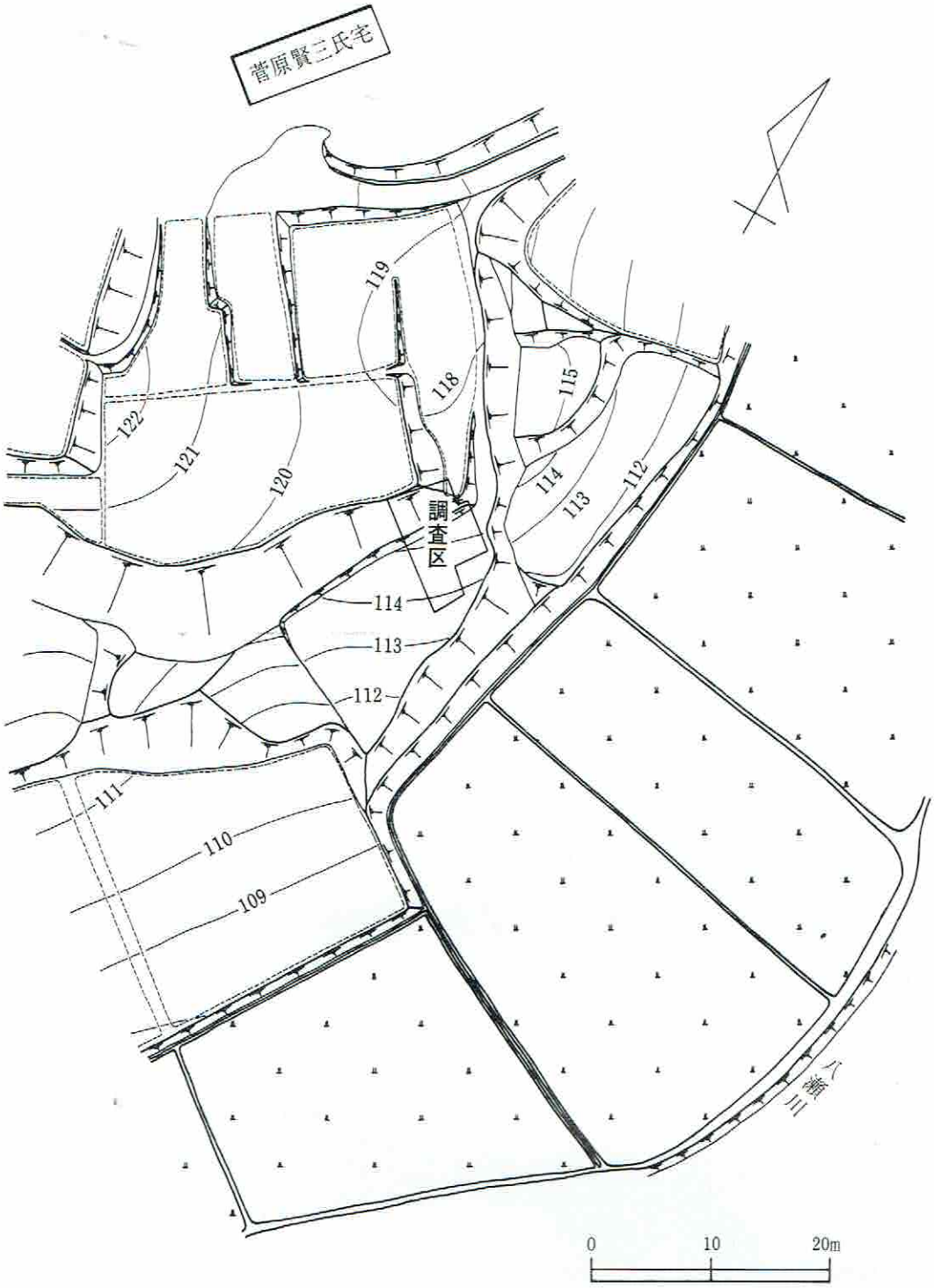
5．横穴の中心軸線は1号横穴は南、2号・3号横穴は東南方向である。

6．横穴の構築時期については、3基ともまったく出土品がなく不明であるが、1号横穴と2号横穴の新旧関係については、1号横穴の崩落土が2号横穴の前庭部まで流れているので、2号横穴の方が古いものと思われる。

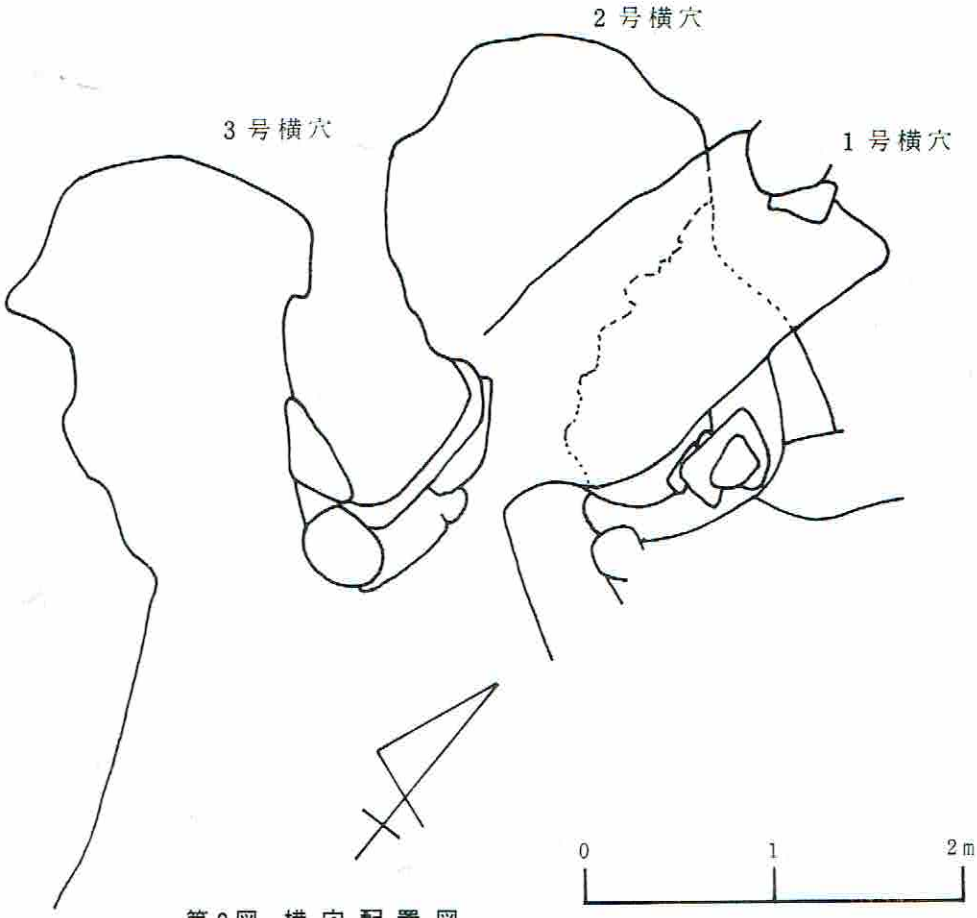
最後になったが、本調査に際し指導をいただいた宮城県教育庁文化財保護課の職員の方々をはじめ、協力をいただいた方々に厚く感謝を申し上げます。

1．塚沢横穴B地区古墳群	7．内松川遺跡
2．塚沢横穴A地区古墳群	8．月館城跡
3．中井館跡	9．赤岩城跡
4．青麻館跡	10．中館跡
5．関根遺跡	11．表松川遺跡
6．月立台遺跡	12．府中館跡

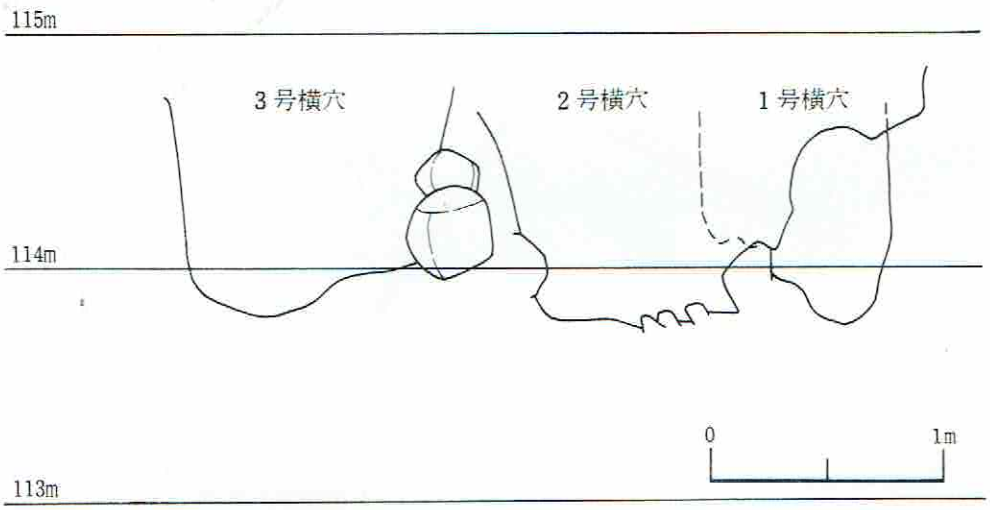
第１図　塚沢横穴位置図表及び周辺遺跡分布図



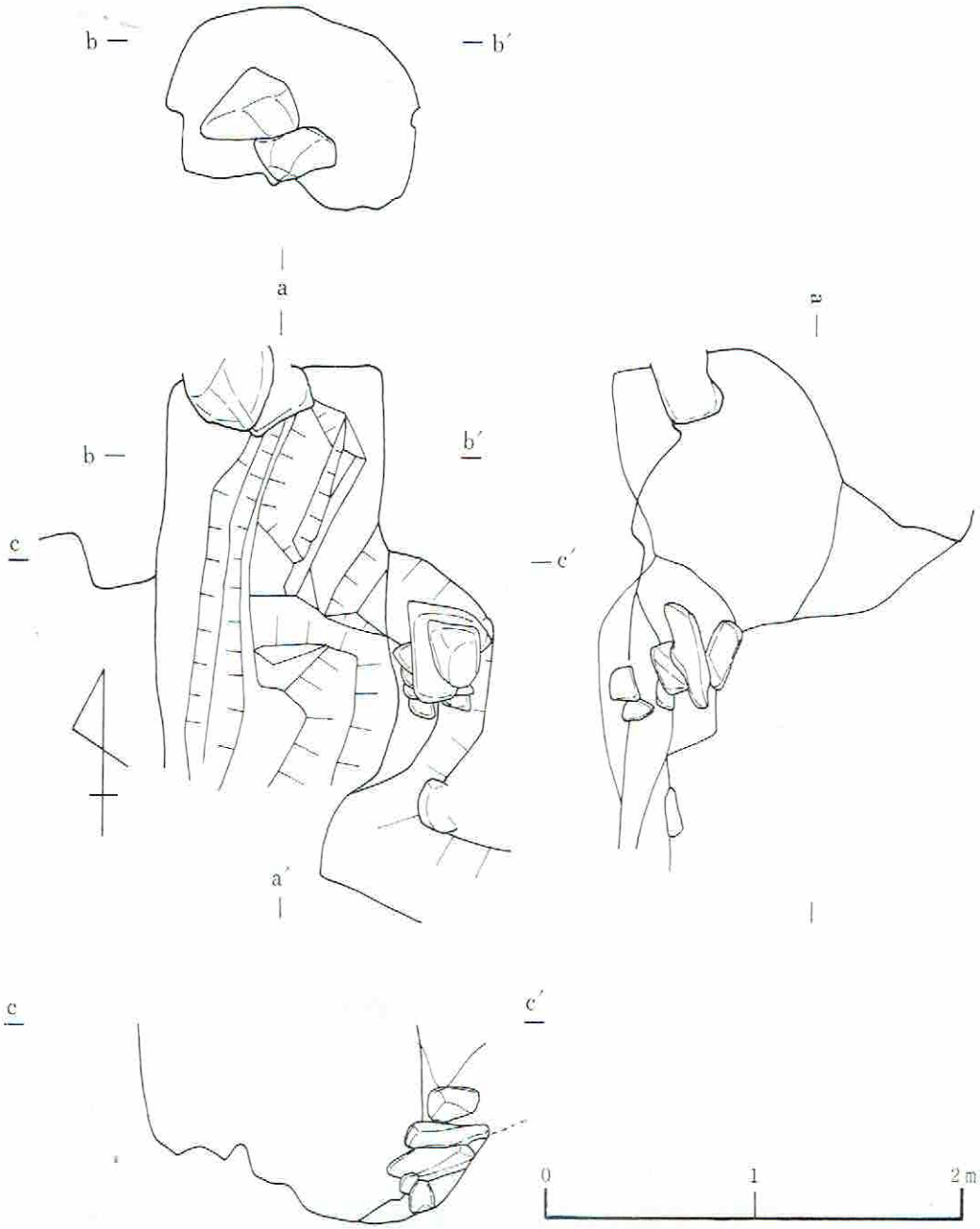
第２図　塚沢横穴Ｂ地区古墳群周辺地形図と調査区位置図



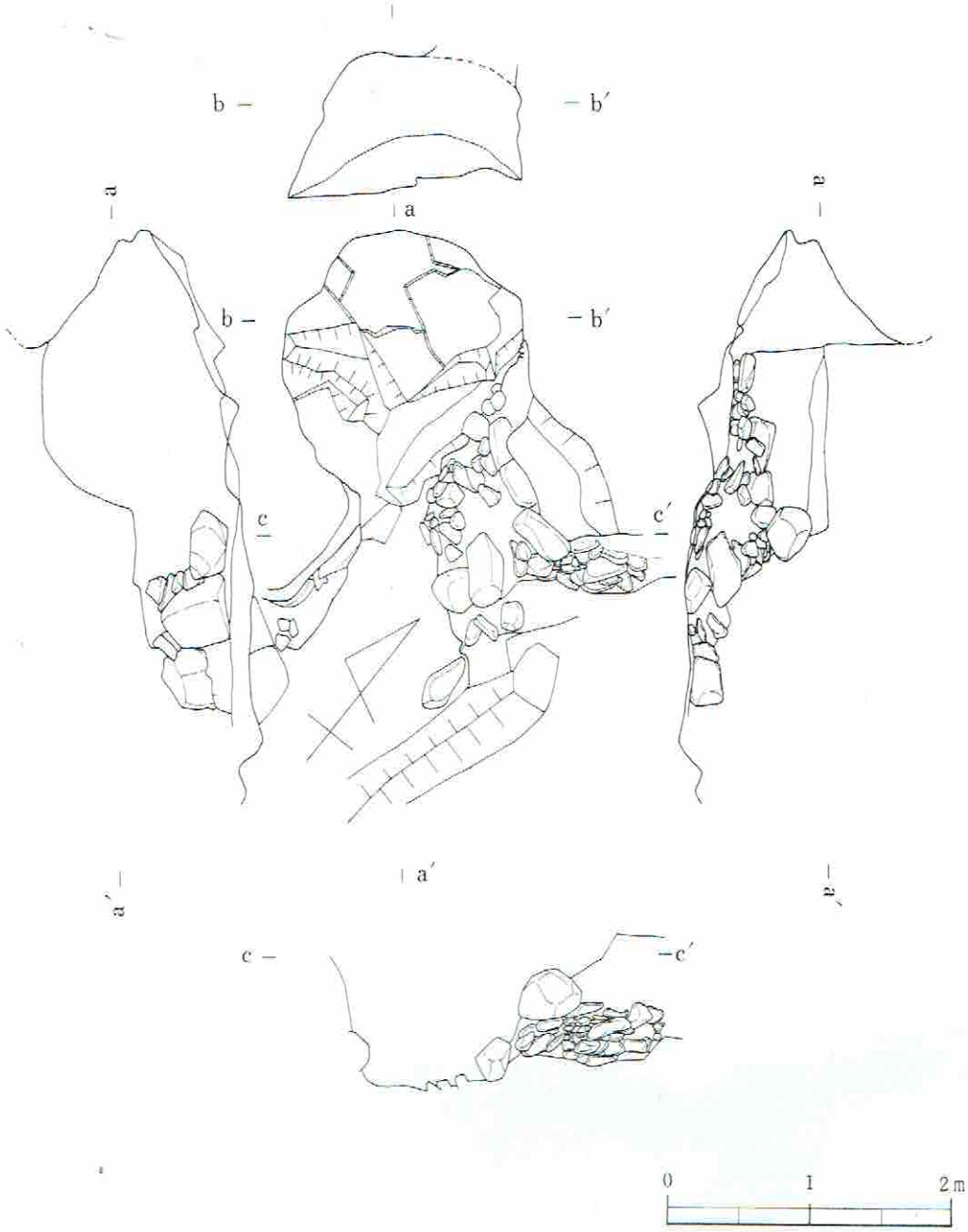
第3図　横 穴 配 置 図



第4図　横穴床面レベル



第5図　1号横穴実測図



第6図　2号横穴実測図

第7図　3号横穴実測図

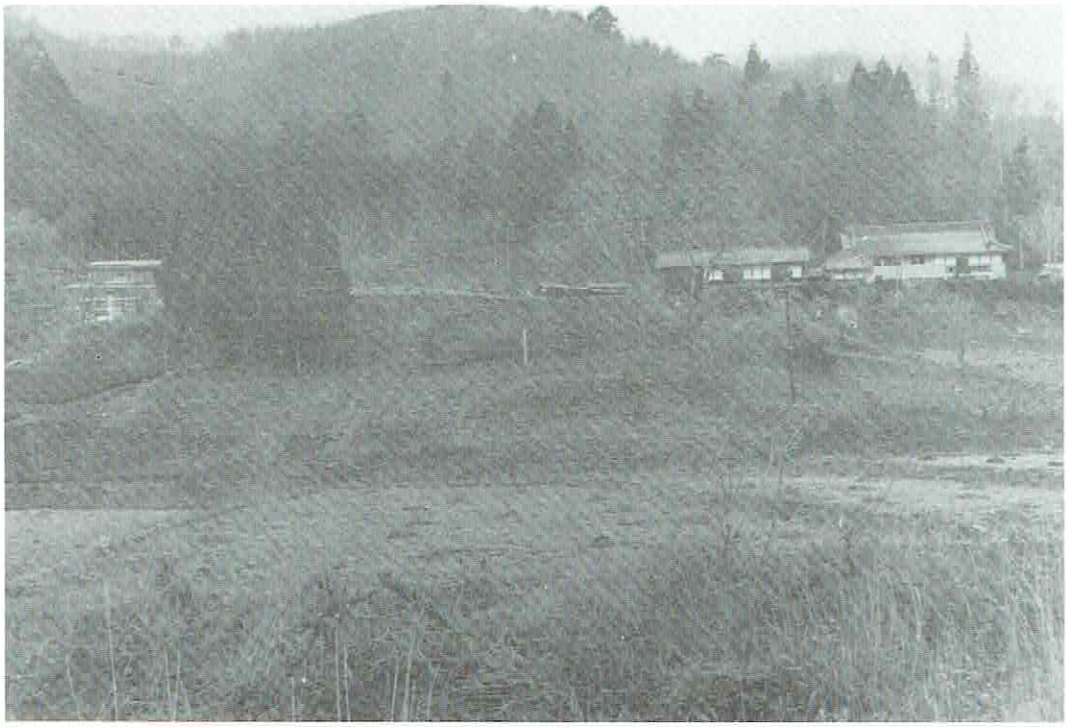


写真 1　塚沢横穴 B 地区古墳群遠景

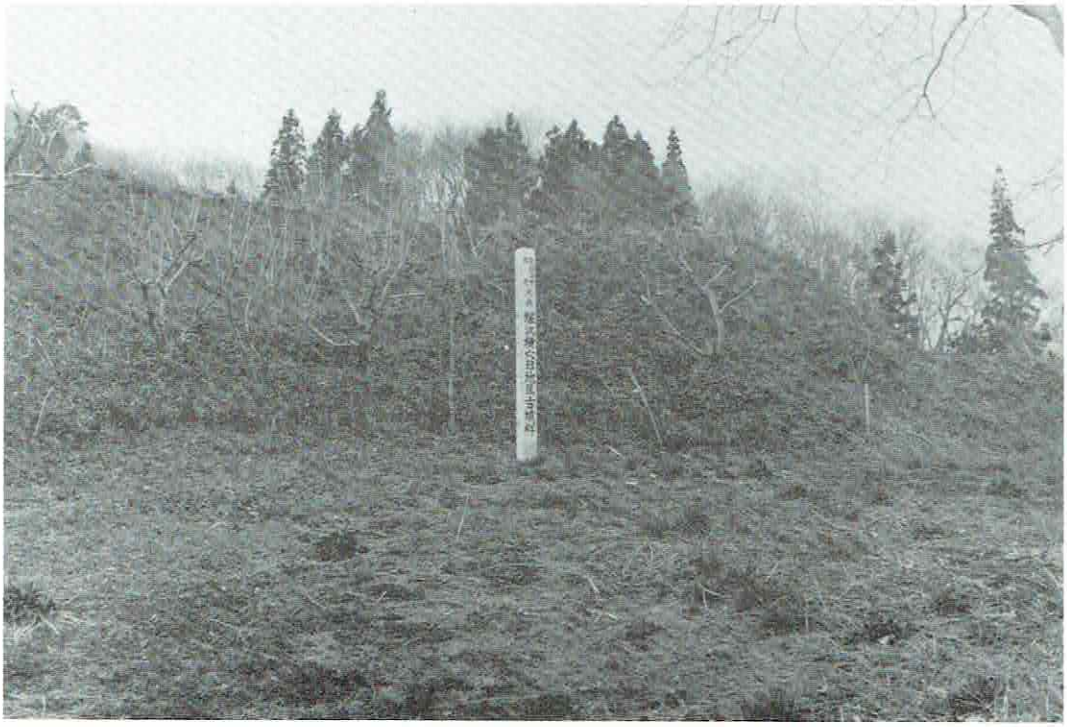


写真 2　塚沢横穴 B 地区古墳群全景

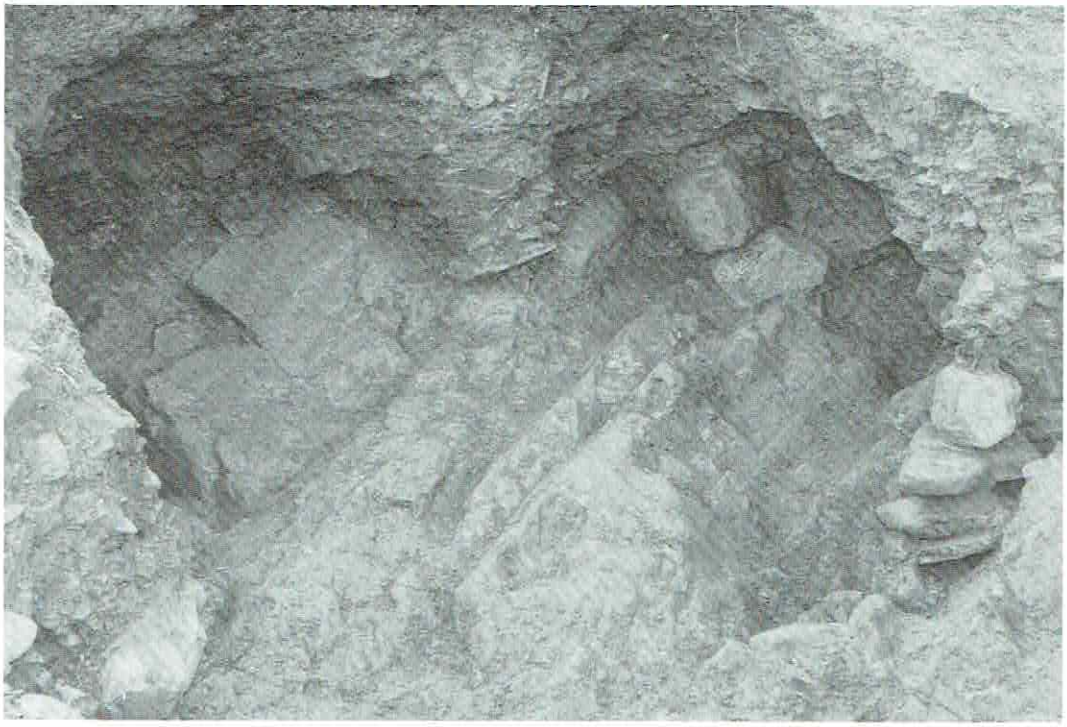


写真３　１号・２号横穴

写真４　２号横穴セクション

写真５　２号横穴前庭部セクション

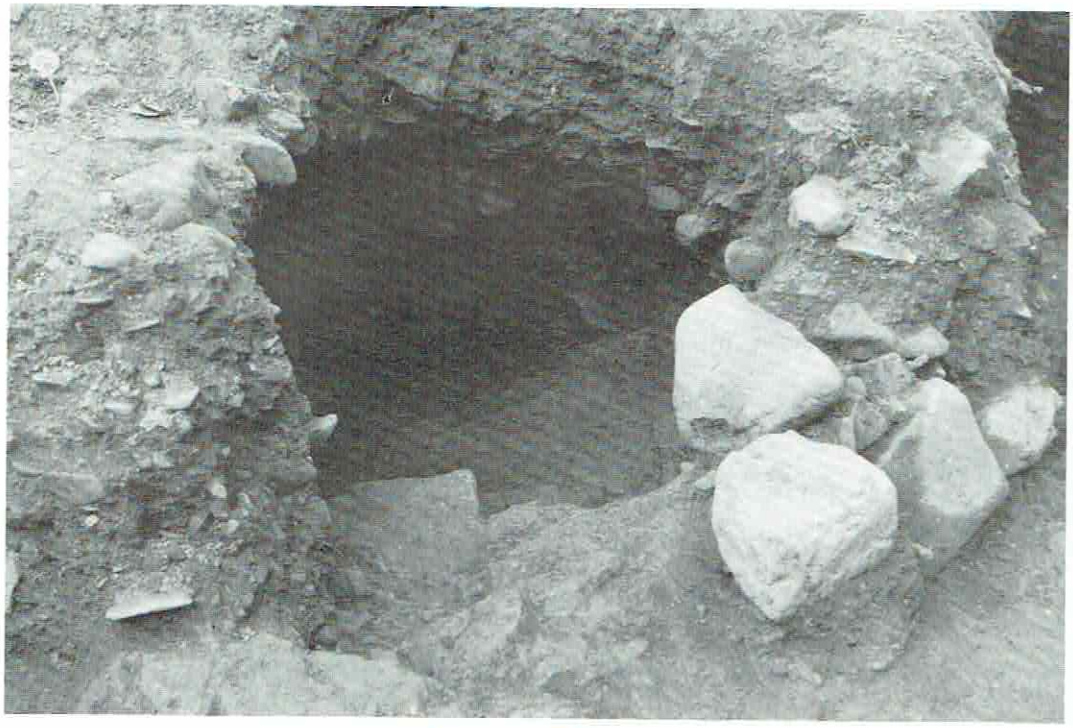


写真６　３号横穴

宮城県気仙沼市文化財調査報告書第３集

塚沢横穴古墳群
B地区発掘調査報告書

昭和５６年３月２６日　印刷
昭和５６年３月３０日　発行

発行　宮城県気仙沼市教育委員会
宮城県気仙沼市八日町一丁目１番１号
〒988　電話（0226）22-6600番代

印刷　有限会社　光文堂印刷
気仙沼市田谷８番地の４
〒988　電話（0226）24-3939番代